

新歓フェスタの上野山先生も執筆 子どもが動き出す授業づくり

今年4月8日に行われた泉北新歓フェスタで「子どもの生活に結びつく授業づくり」という題で実践を紹介してくださった八尾市立龍華小の上野山先生が執筆に加わった「子どもが動き出す授業づくり」という本が出版されました。

養護教諭や 栄養教諭の方に おすすめ

この本は、副題に「総合・道徳・保健の時間にできる『主体的・対話的で深い学び』とあるように、健康や環境、食の問題などをどのように授業として取り入れ、組み立てていくかを分かりやすく示した本です。学習プリントや学級通信のサンプル、資料などを収めたCD-ROMもついて2160円(税込み)です。問合せは、上野山小百合先生(090・6733・5519)または、いまだ社(03・3234・5365)まで

健康教育の実践が本になりました。
みんなで広げて行きましょう!

新刊 子どもが動き出す
授業づくり

総合・道徳・保健の時間にできる「主体的・対話的で深い学び」

CD-ROM 付

AB判 144ページ
定価 2,160円(税込)

今まで体験したことのない授業に
子ども達は大きな手応えを感じます!

健康教育の実践をより広めるための、授業づくりの入門書! 授業の流れを1時間ごとにていねいに示しました。学習プリントや学級通信・資料などを収めたCD-ROM付。

内容と執筆者

1. 食べ物の向こうにアジアが見える	上野山小百合	6. 成長って何だろう?	大津紀子
2. チョコレートのひみつ	川畑洋子	7. たかがゴミ されどゴミ	大津紀子
3. 「すいみん」の学習	窪田泡盛	8. アスベストと健康	武藤神一郎
4. 水俣病を考える	窪田泡盛	9. 原発と健康	東條恵二
5. みんなどこから?	大津紀子・朝輝千明	10. 「エイズ」って何?	上野山小百合
		11. 委員会活動で健康な学校づくり	荒木智子

カジノの合法化に反対!

ギャンブル依存症者30万人

厚生労働省は29日、生涯でギャンブル依存症が疑われる状態を経験した成人が3・6%と推定され、人口換算で320万人に上るという調査結果を発表しました。諸外国の同様の調査との比較でも突出して高い数値で、日本のギャンブル依存症被害の深刻さが改めて示されました。

カジの解禁推進法の議論の中で、ギャンブル依存症が社会的な注目を集めるようになり、それを受けて厚生労働省が全国疫学調査の中間まとめを公表しました。

調査は、国立病院機構久里浜医療センター(樋口進院長)が今年5〜6月に実施しました。無作為抽出した全国の20〜74歳の男女1万人のうち、46・9%の4685人に面接調査を行いました。

生涯に一度でもギャンブル依存症が疑われた人は、男性が6・7%、女性

性が0・6%、ぜんたいでは3・6%でした。最も費やしたギャンブルは「パチンコ・パチスロ」で、78%を占めました。

過去1年以内では0・8%に依存症の疑いがあると推定され、平均年齢は46・5歳。賭け金は月平均5・8万円で、81パーセントの人がパチンコ・パチスロに最も使っていました。

諸外国との比較では、オランダ1・9%、フランス1・2%、スイス1・2%、ドイツ0・2%など、日本が突出して高くなっています。

昨年度末、カジノ解禁に向けた「統合型リゾート(IR)整備推進法」(カジノ法)が成立しました。経済効果や、海外からの観光客誘致などの効果などを挙げながら進められていますが、法案成立直前のNHKの世論調査で、カジノ法案の賛否について「賛成」が12%、「反対」は44%、「どちらともいえない」が34%。同時期、産経新聞がコラム「主張」で、「多くの疑問を残したまま、駆け込みで事を進めている印象がぬぐえない」と指摘しているような状態です。諸外国との比較でギャンブル依存傾向が強いという国民性であれば、カジノを作ることに



「戦争法」を廃止させよう。子どもたちや自衛隊員を戦場に送るな。